

令和5年度大阪府生野聴覚支援学校 学校教育自己診断 結果分析

1 結果分析の手法

- (1) 学校教育自己診断の項目は、府教育委員会の「自己診断実施上の留意点」に基づき、府教委が要項で定める学校教育自己診断の内容（必須項目）と本校独自の項目を付加した内容で診断票を作成し、児童生徒、保護者、教職員を対象に実施した。
診断項目については、昨年度結果と比較できるように同じ内容で実施した。
回答は「1 (A) : よくあてはまる」「2 (B) : ややあてはまる」「3 (C) : あまりあてはまらない」「4 (D) : 全くあてはまらない」とした。
- (2) 集計に当たっては、肯定的な回答【A+B】（肯定率）、否定的な回答【C+D】（否定率）、無回答（無回答率）に分類し、顕著な数値を網掛けで表示するとともに、前回結果と比較できるようにその差を変化ポイントとして表記した。
- (3) 回収率は、児童生徒 98.2%、保護者 81.4%、教職員 98.4%であった。

2 児童生徒 結果分析

(1) 小学部児童

- 肯定率の全体平均は 85.5%で、前回の 78.0%より 7.5 ポイント増加した。否定率の全体平均は 13.5%で前回の 18.4%より 4.9 ポイント減少した。
- A回答だけで60%を超えた項目は9項目に増加した(前回4項目)。「2 一緒に遊ぶ友だちがいる。」(72.5%)、「3 先生は、きこえや体の障がいについてよくわかってくれている。」(62.5%)、「8 命の大切さや生活のルールについてべんきょうしている。」(62.5%)、「9 先生は、みんなが安心して学校ですごせるように考えてくれている。」(67.5%)、「10 先生は、地震や火事などがおこったとき、どうすればよいかわかりやすく教えてくれる。」(70.0%)、「11 行事は、楽しい。」(72.5%)、「12 近くの学校や地域の人との交流は、楽しい。」(60.0%)、「14 先生は、いじめやけんかなどでこまっているときに、きちんと話を聞いてくれる。」(65.0%)、「15 学校のタブレットを使っている。」(70.0%)
- D回答だけで20%を超えた項目はなし(前回0項目)。
- 肯定率が90%以上の項目は6項目に増加した(前回1項目)。「2 一緒に遊ぶ友だちがいる。」(90.0%)、「3 先生は、きこえや体の障がいについてよくわかってくれている。」(90.0%)、「9 先生は、みんなが安心して学校ですごせるように考えてくれている。」(95.0%)、「10 先生は、地震や火事などがおこったとき、どうすればよいかわかりやすく教えてくれる。」(97.5%)、「11 行事は、楽しい。」(97.5%)、「15 学校のタブレットを使っている。」(95.0%)
- 否定率が20%以上の項目は4項目に減少した(前回7項目)。「6 ベんきょうは、分かりやすい」(22.5%)、「7 学校では、大きくなった時のことを考えるべんきょうがある。」(22.5%)、「12 近くの学校や地域の人との交流は、楽しい。」(22.5%)、「13 給食の時間は楽しい。」(27.5%)
- 前年度比較で、肯定率が10ポイント以上増加した項目は、6項目だった。「3 先生は、きこえや体の障がいについてよくわかってくれている。」、「7 学校では、大きくなった時のことを考えるべんきょうがある。」、「8 命の大切さや生活のルールについてべんきょうしている。」、「9 先生は、みんなが安心して学校ですごせるように考えてくれている。」、「10 先生は、地震や火事などがおこったとき、どうすればよいかわかりやすく教えてくれる。」、「14 先生は、いじめやけんかなどでこまっているときに、きちんと話を聞いてくれる。」
- 前年度比較で、否定率が10ポイント以上増加した項目は、1項目だった。「12 近くの学校や地域の人との交流は、楽しい。」

(2) 中学部生徒

- 肯定率の全体平均は 91.1%で前回の 85.2%より 5.9 ポイント増加した。否定率の全体平均は 6.7%で前回の 12.2%より 5.5 ポイント減少した。
- A回答だけで60%を超えた項目は10項目に増加した(前回5項目)。「1 学校に行くのは楽しい。」(64.3%)、「2 なかのよい友だちがいる。」(71.4%)、「10 地震や火災などがおこった時、どのような行動をとればよいか、わかりやすく知らされている。」(64.3%)、「11 行事は、楽しく参加できる」(85.7%)、「12 近くの学校や地域の人々との交流は、楽しい。(部活動の交流を含む)」(71.4%)、「13 給食の時間は楽しい。」(85.7%)、「16 部活動は、楽しく参加できる。」(85.7%)
- 肯定率が90%以上の項目は10項目に増加した(前回4項目)。「1 学校に行くのは楽しい。」(92.9%)、「5 先生は、わたしががんばったことをみとめてくれる。」(100%)、「6 授業は、わかりやすい。」(92.9%)、「8 命の大切さや社会のルールについて学習している。」(100%)、「10 地震や火災などがおこった時、どのような行動をとればよいか、わかりやすく知らされている。」(92.9%)、「11 行事は、楽しく参加できる。」(100%)、「12 近くの学校や地域の人々との交流は、楽しい。(部活動の交流を含む)」(92.9%)、「13 給食の時間は楽しい。」(92.9%)、「14 先生は、いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる。」(92.9%)、「16 部活動は、楽しく参加できる。」(92.9%)
- 否定率が20%以上の項目はなかった(前回3項目)。
- 前年度比較で、肯定率が10ポイント以上増加した項目は7項目だった。「1 学校に行くのは楽しい。」、「5 先生は、わたしががんばったことをみとめてくれる。」、「6 授業は、わかりやすい。」、「8 命の大切さや社会のルールについて学習している。」、「12 近くの学校や 地域の人々との交流は、楽しい。(部活動の交流を含む)」、「13 給食の時間は楽しい。」、「14 先生は、いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる。」
- 前年度比較で、否定率が10ポイント以上増加した項目は1項目だった。「2 なかのよい友だちがいる。」

3 保護者 結果分析

(1) 幼稚部保護者

- 肯定率の全体平均は 95.1%で前回の 92.1%から 3.0 ポイント増加した。否定率の全体平均は 3.1%で、前回 4.0%から 0.9 ポイント減少した。
- A回答だけで60%を超えた項目は15項目に増加した(前回6項目)。「1 学校は、体罰防止にとりくんでいる。」(75.0%)、「2 学校は、教育方針や課題を分かりやすく伝えている。」(83.3%)、「3 子どもは学校に行くことを楽しみにしている。」(75.0%)、「4 学校は、子どもの課題にあった授業をしている。」(69.4%)、「5 学校は、子どもの聴覚障がいの状態を 理解している。」(88.9%)、「6 学校は、子どもの学習状況や努力を 適切・公平に評価している。」(75.0%)、「7 学校は保護者の悩みや相談を聞いてくれる。」(75.0%)、「8 学校は、教育に必要な情報を知らせる努力をしている。」(72.2%)、「9 学校は、家庭と連携して指導にあたっている。」(83.3%)、「10 学校は、子どもに生命を大切にする心や社会ルールを守る態度を養おうとしている。」(77.8%)、「11 学校は、安全面で施設、設備の環境整備を行っている。」(63.9%)、「12 学校の幼児児童生徒指導の方針に共感できる。」(66.7%)、「13 学校の授業参観や学校行事に参加したことがある。」(83.3%)、「14 学校は、将来のことや進路などについて適切な指導を行っている。」(66.7%)、「15 子どもは給食を楽しみにしている。」(63.9%)
- 肯定率が90%以上の項目は14項目に増加した(前回11項目)。「1 学校は、体罰防止にとりくんでいる。」(91.7%)、「2 学校は、教育方針や課題を分かりやすく伝えている。」(97.2%)、「3 子どもは学校に行くことを楽しみにしている。」(97.2%)、「4 学校は、子どもの課題にあった授業をしている。」(97.2%)、「5 学校は、子どもの聴覚障がいの状態を 理解している。」(100%)、「6 学校は、子どもの学習状況や努力を 適切・公平に評価している。」(94.4%)、「7 学校は保護者の悩みや相談を聞いてくれる。」(97.2%)、「8 学校は、教育に必要な情報を知らせる努力をしている。」(97.2%)、「9 学校は、家庭と連携して指導

にあたっている。」(94.4%)、「10 学校は、子どもに生命を大切にする心や社会ルールを守る態度を養おうとしている。」(97.2%)、「11 学校は、安全面で施設、設備の環境整備を行っている。」(100%)、「12 学校の幼児児童生徒指導の方針に共感できる。」(97.2%)、「13 学校の授業参観や学校行事に参加したことがある。」(100%)、「14 学校は、将来のことや進路などについて適切な指導を行っている。」(100%)

- 否定率が 20%を超える項目はなかった (前回もなし)。
- 前年度比較で、肯定率が 10 ポイント以上増加した項目は 1 項目だった。「14 学校は、将来のことや進路などについて適切な指導を行っている。」
- 前年度比較で、否定率が 10 ポイント以上増加した項目はなかった。

(2) 小学部保護者

- 肯定率の全体平均は 93.4%で、前回の 86.8%から 6.6 ポイント増加した。否定率の全体平均は 4.2%で前回の 12.0%から 7.8 ポイント減少した。
- A 項目だけで 60%を超えた項目は 7 項目に増加した (前回 2 項目)。「1 学校は、体罰防止にとりくんでいる。」(67.6%)、「3 子どもは学校に行くことを楽しみにしている。」(64.7%)、「5 学校は、子どもの聴覚障がいの状態を理解している。」(85.3%)、「7 学校は保護者の悩みや相談を聞いてくれる。」(67.6%)、「9 学校は、家庭と連携して指導にあたっている。」(67.6%)、「10 学校は、子どもに生命を大切にする心や社会ルールを守る態度を養おうとしている。」(75.9%)、「13 学校の授業参観や学校行事に参加したことがある。」(91.2%)
- 肯定率 90%以上の項目は、13 項目に増加した (前回 4 項目)。「1 学校は、体罰防止にとりくんでいる。」(91.2%)、「2 学校は、教育方針や課題を分かりやすく伝えている。」(91.2%)、「3 子どもは学校に行くことを楽しみにしている。」(100%)、「4 学校は、子どもの課題にあった授業をしている。」(97.1%)、「5 学校は、子どもの聴覚障がいの状態を理解している。」(100%)、「6 学校は、子どもの学習状況や努力を適切・公平に評価している。」(97.1%)、「7 学校は保護者の悩みや相談を聞いてくれる。」(100%)、「9 学校は、家庭と連携して指導にあたっている。」(100%)、「10 学校は、子どもに生命を大切にする心や社会ルールを守る態度を養おうとしている。」(97.1%)、「11 学校は、安全面で施設、設備の環境整備を行っている。」(91.2%)、「13 学校の授業参観や学校行事に参加したことがある。」(100%)、「14 学校は、将来のことや進路などについて適切な指導を行っている。」(91.2%)
- 否定率が 20%を超える項目は 4 項目に減少した (前回 9 項目)。「8 学校は、教育に必要な情報を知らせる努力をしている。」(20.7%)、「14 学校は、将来のことや進路などについて適切な指導を行っている。」(27.6%)、「15 子どもは、給食を楽しみにしている。」(24.1%)、「17 学校は、いじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる。」(20.7%)
- 前年度比較で、肯定率の変化が 10 ポイント以上増加した項目は 9 項目だった。「2 学校は、教育方針や課題を分かりやすく伝えている。」、「8 学校は、教育に必要な情報を知らせる努力をしている。」、「9 学校は、家庭と連携して指導にあたっている。」、「10 学校は、子どもに生命を大切にする心や社会ルールを守る態度を養おうとしている。」、「11 学校は、安全面で施設、設備の環境整備を行っている。」、「12 学校の幼児児童生徒指導の方針に共感できる。」、「14 学校は、将来のことや進路などについて適切な指導を行っている。」、「16 学校は、聴覚障がいに関わる関係機関や医療機関等と連携して、指導にあつたっている。」、「17 学校は、いじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる。」
- 前年度比較で、否定率の変化が 10 ポイント以上増加した項目はなかった。

(3) 中学部保護者

- 肯定率の全体平均は 83.3%で、前回の 85.3%から 2.0 ポイント減少した。否定率の全体平均は 14.9%で前回の 12.1%から 2.8 ポイント増加した。
- A 項目だけで 60%を超えた項目は 2 項目に増加した (前回 1 項目)。「5 学校は、子どもの聴覚障がいの

- 状態を理解している。」(69.2%)、「13 学校の授業参観や学校行事に参加したことがある。」(69.2%)
- 肯定率 90%以上の項目は 6 項目に増加した (前回 4 項目)。「5 学校は、子どもの聴覚障がいの状態を理解している。」(92.3%)、「6 学校は、子どもの学習状況や努力を適切・公平に評価している。」(92.3%)、「11 学校は、安全面で施設、設備の環境整備を行っている。」(100%)、「12 学校の幼児児童生徒指導の方針に共感できる。」(92.3%)、「13 学校の授業参観や学校行事に参加したことがある。」(92.3%)「15 子どもは給食を楽しみにしている。」(92.3%)、
 - 否定率が 20%を超える項目は 6 項目に増加した (前回 3 項目)。「2 学校は、教育方針や課題を分かりやすく伝えている。」(30.8%)、「4 学校は、子どもの課題にあった授業をしている。」(23.1%)、「8 学校は、教育に必要な情報を知らせる努力をしている。」(23.1%)、「9 学校は、家庭と連携して指導にあたっている。」(23.1%)、「14 学校は、将来のことや進路などについて適切な指導を行っている。」(23.1%)、「17 学校は、いじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる。」(23.1%)。
 - 前年度比較で、肯定率の変化が 10 ポイント以上増加した項目は 1 項目だった。「15 子どもは給食を楽しみにしている。」
 - 前年度比較で、否定率の変化が 10 ポイント以上増加した項目は 3 項目だった。「9 学校は、家庭と連携して指導にあたっている。」、「14 学校は、将来のことや進路などについて適切な指導を行っている。」、「15 子どもは給食を楽しみにしている。」、「17 学校は、いじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる。」

(4) 保護者 (全体)

- 肯定率の全体平均は、92.6%で前回の 89.1%から 3.5 ポイント増加した。否定率の全体平均は 5.4%で前回の 8.3%から 2.9 ポイント減少した。
- A 項目だけで 60%を超えた項目は 10 項目に増加した (前回 2 項目)。「1 学校は、体罰防止にとりくんでいる。」(68.7%)、「2 学校は、教育方針や課題を分かりやすく伝えている。」(65.1%)、「3 子どもは学校に行くことを楽しみにしている。」(65.1%)、「5 学校は、子どもの聴覚障がいの状態を 理解している。」(84.3%)、「6 学校は、子どもの学習状況や努力を 適切・公平に評価している。」(62.7%)、「7 学校は保護者の悩みや相談を聞いてくれる。」(66.3%)、「8 学校は、教育に必要な情報を知らせる努力をしている。」(62.7%)、「9 学校は、家庭と連携して指導にあたっている。」(69.9%)、「10 学校は、子どもに生命を大切にする心や社会ルールを守る態度を養おうとしている。」(63.9%)、「13 学校の授業参観や学校行事に参加したことがある。」(84.3%)
- 肯定率が 90%を超える項目は 14 項目であった (前回は 8 項目)。「1 学校は、体罰防止にとりくんでいる。」(90.4%)、「2 学校は、教育方針や課題を分かりやすく伝えている。」(90.4%)、「3 子どもは学校に行くことを楽しみにしている。」(96.4%)、「4 学校は、子どもの課題にあった授業をしている。」(94.0%)、「5 学校は、子どもの聴覚障がいの状態を 理解している。」(98.8%)、「6 学校は、子どもの学習状況や努力を適切・公平に評価している。」(95.2%)、「7 学校は保護者の悩みや相談を聞いてくれる。」(95.2%)、「8 学校は、教育に必要な情報を知らせる努力をしている。」(90.4%)、「9 学校は、家庭と連携して指導にあたっている。」(94.0%)、「10 学校は、子どもに生命を大切にする心や社会ルールを守る態度を養おうとしている。」(95.2%)、「11 学校は、安全面で施設、設備の環境整備を行っている。」(96.4%)、「12 学校の幼児児童生徒指導の方針に共感できる。」(90.4%)、「13 学校の授業参観や学校行事に参加したことがある。」(98.8%)、「14 学校は、将来のことや進路などについて適切な指導を行っている。」(92.8%)
- 否定率が 20%を超える項目は前回と同様になかった。
- 前年度比較で、肯定率の変化が 10 ポイント以上増加した項目は 1 項目だった。「14 学校は、将来のことや進路などについて適切な指導を行っている。」
- 前年度比較で、否定率の変化が 10 ポイント以上増加した項目はなかった。

4 教職員 結果分析

- 肯定率の全体平均は 88.1%で、前回の 85.2%から 2.9 ポイント増加した。否定率の全体平均は 10.9%で、前回 13.1%から 2.2 ポイント減少した。
- A 項目だけで 60%を超えた項目は 2 項目に増加した (前回 1 項目)。「6 私は、幼児児童生徒の個人情報を適切に管理している。」(63.3%)、「12 児童生徒の指導について、関係教員間でよく話し合っている。」(60.0%)
- 肯定率が 90%を超える項目は 15 項目に増加した (前回 8 項目)。「1 本校は、体罰防止に取り組んでいる。」(91.7%)、「5 施設・設備について、日常的に点検や管理が行われている。」(93.3%)、「6 私は、幼児児童生徒の個人情報を適切に管理している。」(100%)、「10 幼児児童生徒の指導において、家庭との緊密な連携ができています。」(98.3%)、「11 学校は、個別の教育支援計画、指導計画に基づき、工夫・改善しながら、幼児児童生徒の指導にあたっている。」(91.7%)、「12 児童生徒の指導について、関係教員間でよく話し合っている。」(95.0%)、「13 児童生徒が楽しく行事に参加できるよう、工夫・改善を行っている。」(98.3%)、「14 コンピュータ等の情報機器が、授業などで活用されている。」(90.0%)、「15 防災教育・安全指導が十分行われている。」(91.7%)、「16 私は、カウンセリングマインドを取り入れた幼児・児童・生徒指導を行っている。」(93.3%)、「17 教育活動に必要な情報を積極的に収集し、幼児児童生徒や保護者への周知に努めている。」(95.0%)
- 否定率が 20%を超える項目は前回と同じく 5 項目だった。「3 学校運営に、教職員の意見が反映されている。」(33.3%)、「7 医療や福祉関係機関との連携が活発に行われている。」(20.0%)、「8 近くの学校や地域の人々との交流や連携が活発に行われている。」(23.3%)、「21 学校経営計画を踏まえ各部署の一体化が進められている。」(25.0%)、「22 教育相談体制が整備されており、幼児児童生徒は担任以外の教職員とも相談することができる。」(25.0%)
- 前年度比較で、肯定率が 10 ポイント以上増加した項目は 3 項目だった。「6 私は、幼児児童生徒の個人情報を適切に管理している。」、「8 近くの学校や地域の人々との交流や連携が活発に行われている。」、「18 私は、幼児児童生徒の人権を尊重し、日常の教育活動を行っている。」
- 前年度比較で、否定率が 10 ポイント以上増加した項目はなかった。